MEIJO Q&A

経営学部 国際経営学科

Q チャリティだけで多重債務者は、救えるか？

欧米で根付いている チャリティ文化。しかし、 日本でもチャリティが 最適とは限りません。

世界共通の課題における 各国の経済・金融施策を比較。

金融システムや金融機関の国際比較をテーマに研究しています。たとえば近年、低所得などが原因で高い金利による借入れに依存してしまう債務者が、返済に困ってさらに借金を重ねてしまうという多重債務問題が大きな課題となっています。現在日本では、消費者信用生活協同組合などが、生活相談をしたうえで借りまとめによって債務整理ができる生活再生融資を徐々に拡大させていますが、全国に普及するには至っていません。一方海外では、貧困者にお金を貸し、彼らの自立を促すマイクロファイナンスと呼ばれる金融サービスが定着しはじめています。そこで、このマイクロファイナンスをはじめ、海外の金融機関がどのような施策を行っているのか分析し、比較することで問題解決の糸口を探っています。

文化や経済背景の違いを考慮しながら、 海外の良いところを取り入れていくことが重要。

とくに先進諸国におけるマイクロファイナンス成功事例には、慈善事業（チャリティ）として集めた寄付金を元手に運営が行われているケースがしばしばみられます。チャリティを否定するわけではありませんが、ここで大切なのは、ただ海外の成功事例を日本で真似するだけではいけないということ。たとえば、寄付の文化があまり定着していない日本の場合、寄付金をつのるだけでは需要と供給が追いつかないため、資金提供元に少しでも利息をつけて返せる仕組みにしたほうが広く普及するのではないかなど、海外と日本では正解が違うことも多々あります。そこで国の文化なども考慮しながら、それぞれの長所短所を比較検討し、海外の金融施策を上手に参考にしていくことが重要です。

西垣 鳴人 先生

Nishigaki Narunto

イギリスの経済学者ケインズの著書に感銘を受け、経済社会を探求するおもしろさに目覚めました。為替レートや物価の変動など、ニュースなどでも話題になる事象を、複雑に絡み合う世界の経済状況から紐解いていけるのは非常におもしろいです。

私の気分転換

執筆活動は、 頭の整理にも最適。

これまで何度か自分の研究内容を一般の方に解説する書籍を発行させていただいてきました。現在も新たな書籍発行に向けて執筆を続けています。執筆活動を通して、自分の頭のなかを整理することができ、気分転換にもなっています。